

日本地理学会災害対応委員会主催 ハザードマップシンポジウム第2弾

日時：2004年3月27日 13:00～17:00

会場：東京経済大学 3号館 C101教室

(日本地理学会春季大会 第6会場)

住所：〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34

(JR中央線・西武線「国分寺駅」より徒歩13分)

参加費：無料

洪水や火山災害など各種のハザードマップが急速に整備される中、地震災害を想定したハザードマップの整備も始まっている。本シンポジウムは、地震の想定方法、活断層変位への備え、被害軽減のための土地利用等のあり方などを検討し、ハザードマップを地震被害の軽減に役立てるために、いかに地理学的視点を合理的に反映させるべきかについて考え、地理学からの提言を取り纏めることを目的に、公開シンポジウムとして実施する。

プログラム

開会の挨拶と趣旨説明：遠藤邦彦 13:00～13:10

第一部：活断層研究の成果を被害軽減に活かす

座長：岡田篤正 13:10～14:35

松田時彦(地震予知総合研究振興会)

[基調講演]活断層研究と地震防災 - 現状と問題 -

鈴木康弘(愛知県立大)

確率論的地震動予測地図と活断層地震防災

中田 高(広島大)・隈元 崇(岡山大)

高精度活断層位置情報の特徴と活用

宇根 寛(国土地理院)

土地条件図を活かした地震被害軽減のためのハザードマップ整備

第二部：住民にとって何が求められるか？

座長：中林一樹 14:35～15:50

照本清峰(防災科学技術研究所)

ハザードマップの活用とリスクコミュニケーション

村山良之(東北大)

地域にとって有効なハザード情報・ハザードマップ

- 2003年宮城県北部地震からの教訓 -

西山隆之(松本市建設部計画課)

松本市の防災まちづくり

山口 勝(日本放送協会)

ハザードマップにリアリティーを持たせるためには

- メディアからみた課題 -

第三部：総合討論：提言の取り纏めに向けて

座長：中林一樹 15:50～16:50

[コメント]熊木洋太(国土地理院)

鎌田高造(文部科学省)

海津正倫(名古屋大)

まとめ：遠藤邦彦 16:50～17:00

オーガナイザー

中林一樹(東京都立大学)・岡田篤正(京都大学)・村山良之(東北大学)

鈴木康弘(愛知県立大学)・宇根 寛(国土地理院)・遠藤邦彦(日本大学)

連絡先：y-suzuki@ist.aichi-pu.ac.jp(鈴木)、une@gsi.go.jp(宇根)

地震被害軽減に役立つ ハザードマップのあり方

写真提供：国際航業株
(1995年 阪神淡路大震災)